



編集・発行 山見妙勢能
山見妙勢能 報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

もつたいない

植田 観肇

物持ちが良いね、と言われる。確かに、サイズが合う曾祖父の道服を繕って着ていることも多い。また、納屋の奥から出てきた古いカンナやキツチンの奥深くから発掘した包丁をピカピカになるまで研ぎ直して使ってみたり、錆びだらけの鉄のフライパンを丸一日かけてヤスリで磨いたり、半分趣味で古い道具を復活させるのを楽しんでいる。

先日なども、祖父のタンスの奥深くから茶色くなつた白い絹の本衣が出てきたのだが、あまりにもしわくちゃな上にシミだらけだったので、さすがに自分で洗

濯するのは諦めて法衣店にクリーニングを依頼した。だが、あまりのひどさに法衣店でもさじを投げ、結局受け取ってもらえず出戻ってきてしまった。

そこで諦めれば良かったのだが、ついつい趣味の心が首をもたげてきて、時間を見つけて何日もかけて染み抜き方法を調べ、ダメで元々と生地を傷めないギリギリの様々な方法を試した結果、なんとかまだ見るに堪えられる程度の色に落ちて着いてきた。

しかし、それはまだゴールではなく、そこから地道なアイロン当て作業が始まる。既に元のプリーツはほとんど消え、関係ない折り目ばかり。勘だけを頼りに

何度も何度もアイロンを当て直し、ついに白い本衣が現れた。

改めて、昔の物はすごいなど感じる。注意しているとはいえ、これだけ生地を酷使してまだきちんと着られるというのは、現代の使い捨てのファストファッ ションではたぶんこうはいかない。きつと、昔の製品は使い捨てではなく、長く使い続けることを前提に作

られているのだろう。日本では万物に神が宿ると考えるが、道具に対する「もつたいない」という思いも、その神様に対する敬意の現れかもしれない。

法華経では全ての人を敬う事の功德が説かれているが、日本に生きるならば、人や生き物だけでなく万物に感謝しながら、長いおつきあいをしてゆければと思

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

衆生の諸根

樂に著し

癡に

盲いたれたり

斯くの如きの

等類

云何にして

度すべき

『方便品第二』

衆がしたいは人の常
しかし世の中甘くない
愚痴を云いたくありませんね
仏でさえもままならず
この世は苦だと云ってます
だけでも苦だと覚悟すりゃ
開ける道が在ることを
仏はしっかり説いています

【9月の主な行事】

- ★八朔会祈禱祭 1日(日)終日
- ★写経会 8日(日)11時
- ★星嶺演奏会 15日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(日)13時
- ★秋季彼岸会法要 22日(日)13時
- ご先祖の供養をお申込下さい
- ★鷗様月例祭 22日(日)15時

【10月の行事予定】

- ★写経会 13日(日)11時
- 初心者の方もどうぞ！
写仏もできます。
- ★月例祈願法要 15日(火)13時
- ★星嶺演奏会 20日(日)11時
- ★星嶺茶論 20日(日)13時
- お題目の太鼓練習です。
- ★鷗様月例祭 22日(火)15時
- ※火伏守札を授与
- ★お風入れ 宝物館公開展示 22日(火)〜24日(木)

《交通のご案内》

- ◎年に一度の宝物館公開展示
- ◆ケーブル・リフト毎日運行中

大きな貝の物語

服部憲厚

我が家の庭には大きな睡蓮鉢がある。

長らく放置され、夏にはボウフラの温床となっていたので金魚を飼い、睡蓮を浮かべることにした。金魚が隠れる住処として、これまた庭の片隅に転がっていたオオシヤコ貝を沈めた。

この貝。三十センチは優に超す大物。地球上最大の貝といわれ、南太平洋やインド洋の暖かい海に生息するのだが、なぜ家の庭にあるのか、祖母に聞いてみたことがある。

時は昭和十九年九月二十四日。旧日本海軍の輸送船「伊良湖」は、フィリピン・カラミアン諸島コロン湾にてアメリカ軍機動部隊艦上機の攻撃を受ける。私の祖父はまさにその時、この「伊良湖」の乗組員として従軍していた。

ここからは我が家の言い伝えである。

「もう駄目だろう…」祖父は急いで船の中でも一番静かな火薬庫に入るやいなや、肌身離さず持っていた大曼茶羅御本尊を壁にかけ一心にお題目を唱えて命の覚悟を決めた。その後、船は致命傷を負い大破沈没。多くの戦死者を出した。しかし、一番危険な火薬庫に攻撃の手が回らなかつたことは不思議と言う他ない。

前後不覚。祖父は命からがら泳いで近くの無人島に辿り着いたのである。しかし、水や食糧もろくにない過酷な無人島。餓死する寸前、救助の船に助けられたという壮絶な物語である。さて、庭の睡蓮鉢に沈めたオオシヤコ貝の正体であるが、祖父がこの名も知らぬ南方の無人島から持ち帰ったものであるようだ。祖父のいない今、持ち帰った理由はわからない。しか

昔の鉄のフライパンが台所の奥から出てきたので使ってみた。スーパードよく見るテフロン加工のフライパンと違い、鉄のは十分に熱してからでない焦げ付き、テフロン加工のは熱すぎると加工が取れる。見た目も用途も同じフライパンなのだが使い方を知らない

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

らないと本来の性能が発揮できない。仏教に「使い方」というのがあるかどうかはともかく、仏様は相手にあわせて話しているため、そのまま字面を追うだけでは正しく理解できないこともある。その背景も含めて仏の知恵を咀嚼していきたいものだ。 U.K

し、七十五年前にそんな事実があったことをこの貝は教えてくれるのである。今は庭の睡蓮鉢の底で、仲の良い金魚達の住処となっているこの貝は、きっと人間たちの犯した戦争の現実を見ていたはずである。もう二度と惨劇を見せはなされるまいとは思いますが、私に出来ることは何か…。 祖父の唱えたお題目の不思議を信じて、地球という睡蓮鉢の平和を祈ろう。

俳壇 （みのり）

つやつやの採りたて茄子盛り上げて
火口湖の深き青さや蝉しぐれ
青竹のそうめん流し庭広し
台風来備えは固し山の家
穂芒ほすきの波うつ牧に牛ねまる

法華経茶話

譬中明珠喻(二)

この譬中明珠の喩えは『安樂行品第十四』に説かれる喩えです。この喩えに登場する転輪王は釈尊を指し、悪魔は仏道修行を妨げようとする煩惱を表しています。魔とは、善心が、とにかく悪心に負けそうになる私達の心の脆さの代名詞です。仏教では人間の心の正反対の二重性を魔と呼びます。私達人間は、「悪をなせば、結果的に苦になる」と百も承知しながらも誘惑に負けてしまうので、凡夫といわれるのです。 この悪を行えば必ず苦しまなければならないという因果関係をよく弁え、悪を行わないのが仏の智慧です。仏とは全知全能の存在ではなく、人間の中にある仏性を自覚したものを仏と呼びます。だからこそ、仏といえども、我々と同じく仏性もあれば、魔性も具えているのです。